

医療・看護安全対策委員会情報 2008年8月号(No. 52)



採血用穿刺器具は、適切な器具を使用していますか？



平成20年5月より、微量採血のための穿刺器具の不適切な使用についての報道が続いています。

【事例1】看護師が微量採血のための穿刺器具を、自動的に新しい針に切り替わると誤解し、針を交換しないまま複数の患者に使用していた。

【事例2】複数の医療機関において、個人使用専用タイプの器具を、針のみ交換して複数患者に使用していた。

<事故の背景とリスクマネジメントの視点>



【事例1】正しい使用方法が習得できていない。器具使用時の情報共有とトレーニングが必要。

【事例2】針の周辺部分に付着する血液からの感染の危険性がある。個人使用に限定されている。

器具は、針の交換と針周囲部分の消毒をしても複数人に使用することはできない。



<血糖値の測定等において使用する微量採血穿刺器具の特徴を覚えましょう！>

- ①器具全体がディスポーザブルタイプのもの・・・1回限りの使用専用、その都度破棄。
- ②針とその周辺部分がディスポーザブルタイプのもの・・・針とその周辺部分を交換。複数人使用可。
- ③針のみディスポーザブルとして交換するタイプのもの・・・個人使用専用。複数人使用は危険。

今回、問題になったのは③のタイプです。英国の介護施設でも、B型肝炎の発生（2名死亡）との関係が疑われる旨の発表があっています。使用対象に応じた適切な器具の選択かどうか、再度見直しましょう。

詳細は、日本看護協会ホームページ「医療安全情報」をご参照下さい。